

# 「デジタル・ガバメント」及び「自動運転」の推進について

---

平成 3 0 年 3 月 3 0 日  
松山大臣提出資料

# デジタル・ガバメントの推進

## ① 添付書類の撤廃

- 「登記事項証明書」や「戸籍謄抄本」などの添付書類を一括して撤廃するための**法案を年内に作成**。
- 行政機関同士の**情報連携**等により、添付書類を撤廃するシステムの整備。

(参考) 戸籍謄抄本が必要な手続の年間件数 (例)  
パスポートの年間申請件数 : 374万件

## ② ワンストップサービスの推進

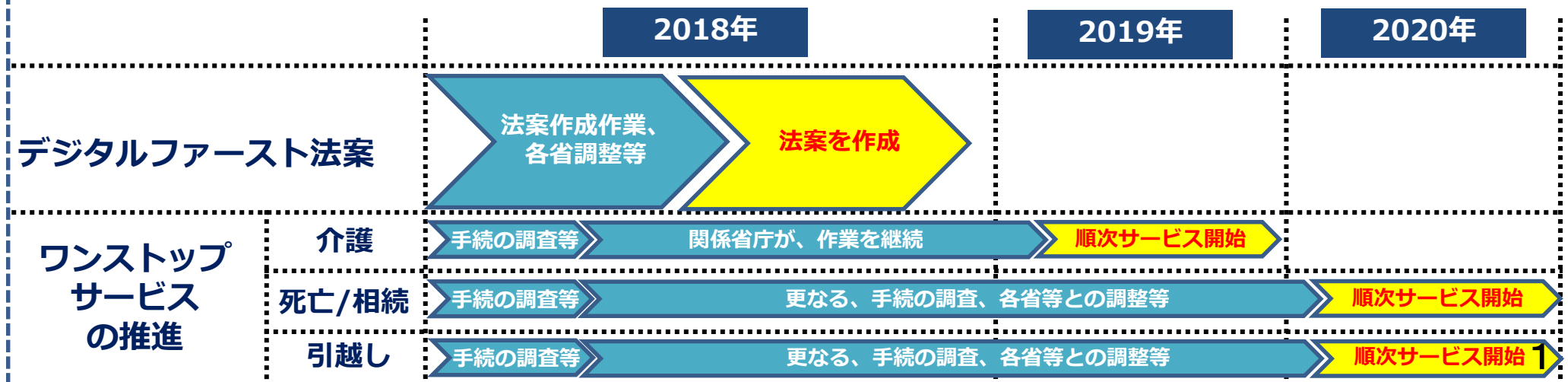
- 先行分野として、**介護、死亡/相続、引越し**のライフイベントの際の**諸手続のワンストップ化**を推進。

例えば、引越し時の「年金や健康保険の住所変更届」や「自動車の変更登録」等の諸手続をワンストップで実施できる仕組みを検討。

国民が手続に費やす時間と労力を削減し、生活の質的向上を実現する。

## 今後のスケジュール

- **内閣官房IT総合戦略室が中心**となって、既に、プロジェクトの**作業に着手**。
- 今後、プロジェクトの着実な実施のため、**IT総合戦略室の「機能」・「体制」の強化が不可欠**。



# 自動運転に係る制度整備大綱（概要）

自動運転車は、これからの日本における新しい生活の足や、新しい移動・物流手段を生み出す「移動革命」を起こし、多くの社会課題を解決して我々に「豊かな暮らし」をもたらすものとして大きな期待

## 制度整備大綱に基づいた主な取組事項

### ■ 車両の安全確保の考え方

- ① 安全性に関する要件等を本年夏までにガイドラインとして制定
- ② 日本が議論を主導し、車両の安全に関する国際基準を策定
- ③ 使用過程車の安全確保策の在り方について検討

### ■ 交通ルールの在り方

- ④ 自動運転システムが道路交通法令の規範を遵守するものであることを担保するために必要な措置を検討。国際的な議論（ジュネーブ条約）にて引き続き関係国と連携してリーダーシップを発揮し、その進展及び技術開発の進展等を踏まえ、速やかに国内法制度を整備
- ⑤ 無人自動運転移動サービスにおいては、当面は、遠隔型自動運転システムを使用した現在の実証実験の枠組みを事業化の際にも利用可能とする

### ■ 安全性の一体的な確保（走行環境条件の設定）

- ⑥ 自動運転の安全性を担保するための走行環境条件（低速、限定ルート、昼間のみ等）を検討・策定

### ■ 責任関係

- ⑦ 万一の事故の際にも迅速な被害者救済を実現
- ⑧ 関係主体に期待される役割や義務を明確化し、刑事責任を検討
- ⑨ 走行記録装置の義務化の検討

## 2020年の実現イメージ

- (1) 自家用自動車での高速道路での自動運転



イメージ画像であり、自動運転中に運転者ができることについては、現在検討中

- (2) 限定地域での無人自動運転移動サービス



# 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）による自動運転への取組

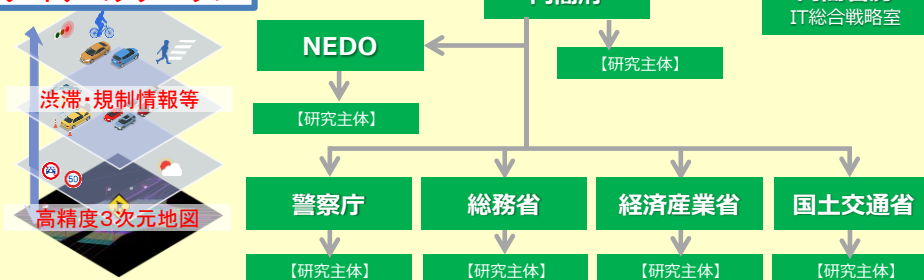
- 総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより、科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクト
- 国民にとって真に重要な社会的課題や日本経済再生に寄与できるような世界を先導する課題について、産学官連携を図り、基礎研究から実用化・事業化まで見据えて一気通貫で研究開発を推進

## SIPによる自動運転への取組

### 【平成26年度～平成30年度】

- 高度な自動走行システムの実現に向け、ダイナミックマップ等の産学官共同で取り組むべき技術課題（協調領域）について、関係省庁連携による研究開発を推進。（30年度配分額：28億円）

#### ダイナミックマップ



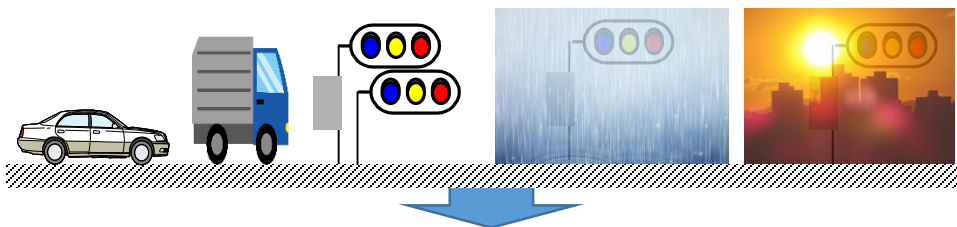
### 【第2期：平成29年度補正～】

- 自動運転に係る激しい国際競争の中で世界に伍していくため、世界最先端のコア技術（信号・プローブ情報をはじめとする道路交通情報の収集・配信などに関する技術等）を確立し、一般道で自動走行を実現するための基盤を構築

## 実証環境イメージ

### 【現在】

- 車載カメラ等による信号燈火の認識
- 課題：夕日、悪天候、大型車の後方等における認識
- 複数の信号機が視認できる場合の誤った信号の認識
- 信号の誤認識は、重大な事故を招くおそれ



### 【一般道路におけるインフラ協調型の実証環境整備】

- SIPの枠組みを活用して、関係省庁と連携し、信号情報を電波で車に配信できる設備等を東京臨海地区に整備
- 複数手段による信号認識により、安全な実証環境を実現
- 2020年に最先端の自動運転技術を国内外に発信

